**今月の表紙**

連連絡協議会駅伝競技大会が開催され、市内の中学校12校から男子・女子それぞれ12チームが参加しました。

　田尻総合体育館前を発着点とするコースで、男子が18・0キロメートル6区間、女子が12・3キロメートル5区間を走りました。

　選手たちは、炎天下、たすきを待つ仲間のもとへと、力強くスタートを切っていきました。

　男子は古川東中学校、女子は古川黎明中学校が見事優勝を果たしました。

　宮城県中学校駅伝競走大会は、10月5日㈬に田尻地域において開催される予定です。

**広報おおさき8月号　2022　No.197**

**Main Contents　目次**

04 楽しもう　大崎のまつり

06 オオサキプレイガイド

08 CITY TOPICS

09 Discover OSAKI

10 OSAKI Culture

12 新型コロナウイルスワクチン接種情報

13 くらしの情報 おおさき市民健診 ほか

24 子育て支援情報　ほか

26 相談コーナー

28 Main Dish

**大崎市公式SNS発信中です！**

　市公式SNS（、）では、観光やイベント情報など、さまざまな最新情報を発信しています！

QRコードから、登録をお願いします。

問い合わせ秘書広報課広報広聴担当 電話23-5023

**みんなでエコっぺ！～やってみよう「エコ活」～**

問い合わせ　環境保全課環境保全担当 電話23-6074

Vol.2 ～農産物直売所に行ってみよう～

　皆さんは「農産物直売所」に行ったことはありますか？地元農産物は新鮮で、生産者が分かり安心感があるなど、地元農産物を買うこと（地産地消）には多くのメリットがあります。その中の一つに「温室効果ガス排出の削減」があります。

　現在、日本ではカロリーベースで約60％を輸入食品で賄っていることから、その分、輸送に必要となる、温室効果ガスの排出が増えています。

　それに比べて国産、特に地元や旬の食材は輸送や温室の使用が減少するため、温室効果ガスの排出を抑えることができます。

■国産・地元食材を使用した場合

(年間のCO₂削減量：地産地消8キログラム/人、旬の食材36キログラム/人)

　食材を買うときは、農産物直売所やスーパー等の地場産品コーナーにも行ってみましょう。

**パタ崎さんの食育コラム**

その16　水分補給のポイント！

問い合わせ 世界農業遺産推進課企画調整担当 電話23-2281

　　暑い時期は、汗をかいて体温を調整するため、体の水分が多く失われるよ。夏は、冷たい飲み物がおいしく感じられるよね。だけど、冷たい物を飲み過ぎると、体に負担がかかるから気をつけよう！

炭酸飲料・果汁飲料・スポーツドリンク・甘みのある水などの清涼飲料水には、糖分が多く含まれていて、糖分を取り過ぎると、喉が渇いたりしてしまうから注意が必要だよ。

　上手な水分補給の方法として、理想的なのは、朝、起きた時や、寝る前、お風呂に入る前など、汗をかく前に水分を取るのが効果的だよ。水分を取る際には、一度にたくさんの水分を取らないで、少しずつ口に含ませるような感じで水分を補給し、飲む量は水やお茶などをコップ一杯程度にしてね。

　上手な水分補給で、暑い夏を元気に過ごそう！

**オオサキワンダーミュージアム　人と大自然の青空博物館**

Vol.28　大崎耕土インスタフォトコンテストの作品を募集中です！！

問い合わせ 世界農業遺産推進課自然共生推進担当 電話23-2281

　　大崎耕土が平成29年に世界農業遺産に認定されてから今年で5年目を迎えました。

　大崎地域世界農業遺産推進協議会では、認定5周年を記念し、「大崎耕土インスタフォトコンテスト」を開催しています。このフォトコンテストでは、大崎耕土をこれまで以上に多くの人に知ってもらい、未来につないでいくことを目的に、さまざまな写真をで広く募集しています。

　募集期間は、9月30日(金)までで、応募する際は、協議会公式Instagramアカウント（@osaki\_giahs）をフォローの上、応募専用ハッシュタグ「＃大崎耕土フォトコン」を付けて作品を投稿してください。入賞者には景品として、大崎地域の地場産品などが贈呈されるほか、入賞作品は、令和5年大崎耕土卓上カレンダーにも採用されますので、ぜひ応募してください。詳しくは、大崎耕土ウェブサイトを確認してください。

**市長コラム　天地人**

をけ

　先日、古川商工会議所の創立70周年記念式典が盛大に開催されました。

　日本に初めて商工会議所が設立されたのは、明治11年（1878年）東京商工会議所です。初代会頭は、日本資本主義の父、日本商工会議所の父と称された渋沢栄一翁です。

　昨年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」は、渋沢栄一翁を主人公にしたドラマです。2024年から新一万円札の顔になります。

　その渋沢栄一翁は、大崎市と浅からぬご縁があります。

1840年、現在の埼玉県深谷血洗島で農民の子として生まれ、21歳の時、江戸に出て修行したのが神田お玉ヶ池の千葉道場です。

千葉道場を開いた剣豪千葉周作は、古川荒谷で少年時代を過ごし、その後、江戸に上り北辰一刀流を開祖しました。

　栄一青年は、千葉道場で青雲の志を立て、大きな世界に羽ばたきました。

　また、パリ万博博覧会に幕府の一員として随行し、帰国した渋沢栄一翁を明治政府の民部大蔵省に招いたのは、当時の民部卿、大蔵卿であった宇和島藩の八代藩主伊達宗城公です。宇和島藩の初代藩主は伊達秀宗公で、秀宗は伊達政宗の長男で幼少時代を岩出山で過ごしています。

　宇和島市と大崎市（岩出山）は姉妹都市でもあります。

　そのようなご縁もあり、渋沢栄一翁は東北に強い関心を抱き、東北振興にもご尽力いただきました。

　古川商工会議所も70年を踏み台にして、「青天を衝く」がごとく、更なる発展をされますことを期待しております。